



2024年度

(令和6年度)

事業報告書

第1 法人の概要

- 1 学院の母胎
- 2 学院のモットー、教育理念
- 3 学院の沿革と概要

第2 事業の概要

- 1 2024年度 事業方針
- 2 2024年度 法人 事業報告
- 3 2024年度 中学校高等学校 事業報告
- 4 2024年度 小学校 事業報告
- 5 2024年度 こども園幼稚園 事業報告

第3 財務の概要

- 1 財務の経年比較

学校法人 聖母被昇天学院

第1 法人の概要

法人の名称： 学校法人 聖母被昇天学院

法人の住所： 大阪府箕面市如意谷 1-13-23

電話番号： 072-721-7680

設立： 1954 年（昭和 29 年）2 月 6 日学校法人被昇天学園設立認可

1 学院の母胎

学校法人聖母被昇天学院は、1839 年フランスのパリで聖マリ・ウージェニーによって創立されたカトリック聖母被昇天修道会を母胎としている。聖マリ・ウージェニーは、1817 年 8 月 25 日フランスのメッツで生まれ、2017 年 8 月に生誕 200 周年を迎えた。聖マリ・ウージェニーは教育理念「自立した女性を育てる」の具現化のため、世界各国に教育機関として聖母被昇天学院を創立した。日本では、1952 年にフィリピンとヨーロッパから 5 人のシスターたちが来日して修道院を創ると共に、教育事業の開設を準備し、1954 年に学校法人として認可されて以来、聖マリ・ウージェニーの教育理念の原点に立って、こども園・小学校・中学校高等学校の保育並びに教育活動を展開している。

2 学院のモットー、教育理念

(1) 学院のモットー

「誠実・隣人愛・喜び」 『世界の平和に貢献する人の育成』

(2) 教育理念

LIFE—生き活きとエネルギーに生きる人

TRUTH—いかなる時でも真実を見極め、誠実に行動する人

FREEDOM—周りにながされず自分で判断し、自分らしく生きる人

GOODNESS—一人ひとりの善さを大切に、ポジティブに思考・発言・行動する人

ONENESS—誠実・隣人愛・喜びの精神大切に、多様性を認め、ともに協働する人

3 学院の沿革と概要

(1) 法人設立認可年月日

1954 年（昭和 29 年）2 月 6 日学校法人被昇天学園設立認可

1987 年（昭和 62 年）4 月 1 日学校法人被昇天学園から学校法人聖母被昇天学院に
名称変更

(2) 学校園設置認可年月日

1954 年（昭和 29 年）2 月 9 日幼稚園設置認可

1954 年（昭和 29 年）2 月 9 日小学校設置認可

1959 年（昭和 34 年）11 月 6 日中学校設置認可

1962 年（昭和 37 年）9 月 29 日高等学校設置認可

1967 年（昭和 42 年）1 月 23 日短期大学設置認可

2005 年（平成 17 年）7 月 29 日短期大学閉学認可

2015 年（平成 27 年）3 月 31 日幼稚園廃止認可

2015 年（平成 27 年）4 月 1 日認定こども園設置認可

(3) 設置する学校園の概要

幼稚園 1953 年（昭和 28 年）4 月 1 日開園、2015 年（平成 27 年）3 月 31 日閉園

小学校 1954 年（昭和 29 年）4 月 1 日開校

中学校 1960 年（昭和 35 年）4 月 1 日開校

高等学校 1963 年（昭和 38 年）4 月 1 日開校（全日制普通科）

認定こども園聖母被昇天学院幼稚園 2015 年（平成 27 年）4 月 1 日開園

2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際小学校に名称変更
 2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際中学校に名称変更
 2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際高等学校に名称変更
 2018 年（平成 30 年）4 月 1 日こども園アサンプション国際幼稚園に名称変更

(4) 学校園の生徒等数の状況

2024 年 5 月 1 日現在 （単位：人）

区 分	収容定員数	現員数	収容率
	(A)	(B)	(B / A)
こども園アサンプション国際幼稚園	324	218	67.30%
アサンプション国際小学校	480	381	79.40%
アサンプション国際中学校	240	147	61.30%
アサンプション国際高等学校	360	381	105.80%
合計	1404	1127	80.30%

認定こども園聖母被昇天学院幼稚園は2018 年 4 月 1 日に、こども園アサンプション国際幼稚園に園名を変更

(5) 役員、評議員の概要

2024 年 5 月 1 日現在 （単位：人）

職 務	定員数	現員数
理事	5	5
監事	2	2
評議員	11	11

(6) 教職員の概要

2024 年 5 月 1 日現在 （単位：人）

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
教 員	本 務	16	34	12	30	96
	兼 務	21	9	10	13	47
職 員	本 務	1	4	2	5	12
	兼 務	1	7	2	2	12

第2 事業の概要

1 2024 年度 事業方針

(事業目標)

(1)経営再建として5カ年をめどに単年度収支の黒字化を図るため、下記の募集人数を確保する。

小学校	80 名	(募集定員 80 名)	⇒ 事業実績	2024 年 4 月新入生	55 名
中学校	50 名	(同 70 名)	⇒ 事業実績	2024 年 4 月新入生	52 名
高等学校	130 名	(同 120 名)	⇒ 事業実績	2023 年 4 月新入生	132 名

(2)小中高は、「21世紀型教育」3本の柱の中 本学院の特性を生かし特に英語教育に力を入れ、広報の柱として募集を図る。

(3)学院スクールモットー「誠実 隣人愛 喜び」を生きる生活基盤となるよう、教育課程の様々なところにカトリック理念を入れ込むアサンプション教育の徹底を図る。

(事業展開)

(1) 学院が統一した教育精神を伝え、幼稚園と小学校、小学校と中学校の連携を強化する。

(2) 学院で学ぶ生徒が、自分の可能性を見出し、生きる力を身に付ける。また、カトリック校としての伝統である「心豊かな教育」と共に、予測不可能な時代に立ち向かい、生きる力を身に付けるためにPBL「課題解決型学習」を日常の学びに充実・発展させる。

(3) 学院の「教育の3本柱」は、PBL (Project Based Learning 課題解決型教育)・英語教育・ICT教育である。所属ごとに年齢に合った教育活動の土台とする。

(4) ICT教育においては、小学校2年生からiPadを一人一台所持する。

(5) 学院の教育理念である「ONENESS」を、学院全体に浸透させ学院として学びの共同体となる。

(事業実績) 2024 年度在校生の内訳

	男子		女子		計
小学校	152	40%	229	60%	381
中学校	68	46%	79	54%	147
高等学校	165	43%	216	57%	381
計	385	42%	524	58%	909

2 2024 年度 法人 事業報告

1. 入学生激減から脱却し、増加に転換

本学院は、創立者のカトリックの精神に添い、教養ある人材の育成を掲げ、1954 年（昭和 29 年）2 月に学校法人被昇天学園として設立認可を受け、幼稚園及び小学校を開校し、以後順次、中学校、高等学校、短期大学を開校し、以後、1987 年（昭和 62 年）4 月に法人名を聖母被昇天学院に変更し、2005 年（平成 17 年）7 月に短期大学を閉学したが、本学院の母胎である聖母被昇天修道会の教育理念に従って学校教育及び保育を展開してきた。しかし、近年は少子化の影響を多分に受け、2015 年 4 月には小学校入学生が 15 名と激減した。この現状を鑑み、2017 年より 21 世紀型教育並びに本学院の特性である英語教育を強化し現在に至っている。

近年の５月１日在籍生徒数と収容定員充足率

年度	収容定員	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
幼稚園	324	308	309	296	285	275	259	244	238	251	218
小学校	480 (360)	189	179	208	244	267	303	372	399	401	381
中学校	240	133	133	117	127	141	160	137	132	136	147
高校	360 (240)	172	164	184	233	311	317	313	314	376	381
総合計	1404	802	785	805	889	994	1039	1066	1083	1164	1127
小中高計	1080 (960) (840)	494	476	509	604	719	780	822	845	913	909
小中高収容 定員充足率		58.8%	56.7%	60.6%	71.9%	74.9%	81.3%	85.6%	78.2%	84.5%	84.2%

※2017 年から小中高が男女共学

※高校の収容定員は 2018 年まで 240 名、2019 年から 360 名

※小学校の収容定員は 2021 年まで 360 名、2022 年から 480 名

2. 施設設備工事等

2024 年度の施設の老朽化等に伴う改修工事は次のとおりである。

- ・ 小学校男子トイレ増設工事
- ・ 食堂床・壁ほか改修工事
- ・ 高圧受電設備工事

3 2024 年度 アサンプション国際中学校高等学校 事業報告

【ミッション】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す
～全学年が新体制になるため、「アサンプション 21 世紀型教育」の充実と定着

【最重要課題】

1. 入学者の確保 中学校 50 名以上、高等学校 130 名以上の入学者確保。
2. アサンプション 21 世紀型教育をさらに定着し充実するため、学校全体・教員個人の教育力の向上を目指す。
3. 学校改革に見合った施設設備の充実。

【最重要課題に対する施策と評価】

1. 入学者の確保について

(1) 中学入試結果

	志願						受験	入学		
	帰国生	A 午前	A 午後	B 日程	C 日程	合計	合計	併以外	併設小	合計
2025年度入試	0	22	13	16		51	50	24	24	48
2024年度入試	0	28	13	21		62	58	25	27	52
2023年度入試	1	28	15	14		58	56	27	29	56

1) 募集状況

- ・学校内外の説明会参加者は 481 名。（2023 年度 467 名）
- ・サッカー部生徒は志願者における割合を下げるため 2024 年度より 7～8 名と設定した。
これにより、合格後にも関わらず、サッカー部への辞退者が 2 名いた。

2) 受験状況

- ・併設小からの進学者が 24 名（昨年比 3 名減） ← 共学・イングリッシュコース 3 期生
- ・志願者はのべ 51 名（昨年比 11 名減）
- ・サッカー生徒は最終的に 8 名

3) 入学状況

- ・入学者は 48 名（昨年比 4 名減）
← 併設小からの入学者が 24 名と、毎年数名ずつだが減少傾向にある。
- ・併設小以外・サッカー以外の入学者が 16 名と低いラインで横ばい
→ 併設小・サッカー部との人数バランスを取りどのグループも少数としない戦略が必要

4) 分析

- ・中学入試の状況は厳しいのはどこの学校も同じである。広報活動をもっと「参加して良かった」と思える、アサンプションファンを増やす戦力を立てる必要がある。
- ・中学校の教育的な魅力創出（学校行事、海外修学旅行、教育課程の検討）
＋中堅他校のような奨学金制度などの整備も必要
- ・成功している他方やライバル校の研究が必要である。

(2) 高校入試結果

	帰国		1 次		1.5 次		合計					
	専願	併願	専願	併願	専願	併願	専願	併願	併以外	併設中	合計	
2025 年度入試	0	3	50	69	1	4	51	76	65	31	96	※併願戻り 14／74(19%)
2024年度入試	2	1	83	91	0	2	85	94	102	30	132	※併願戻り 18／94(19%)
2023年度入試	2	4	78	124			80	128	114	40	154	※併願戻り 34／128(27%)

1) 募集状況

- ・学校内外の説明会参加者は 981 名（昨年比 99.8%）⇔ 2024 年度 1008 名
- ・併設中からの進学者は 31 名
- ・総入学者を 130 名・4 クラスにおさえるためアカデミックコースのレベルアップを行った

2) 受験状況

- ・受験者総数は 118 名（昨年 174 名）と、大幅減となった。
- ・本校の強みであるイングリッシュコースへの受験者もかなりの減であった。
- 2024 年度はイングリッシュコースの人気の相次ぎ 47 名クラスになったのも減の理由である
と考える。

3) 入学状況

- ・入学者は 96 名となり、大幅減となった。
- ・公立高校の倍率減少で併願戻りが一般的に大きく減る中、例年並みの戻り率となった。
- 国際系のイメージがある箕面高校や近いレベルの山田高校の人気の背景にある。

4) 分析

- ・私学助成の拡大による私学人気の追い風によることは否定できない。
- ・その一方豊能・吹田市といった近隣地域からの受験者が多くを占めることから、広報活動だけでなく、普段の部活動による交流や校長や学校が変化しないことによる安定感、入試訪問等による信頼関係構築など地道な活動が結果に結びついている。
- ・来校した中学校はすべて訪問フォローした。（訪問校 131 校）
結果として受験につながっている。
- ・学校説明会では、在校生を多く出演させたことが受験生の高評価につながっている。
- ・Web ページの修正は費用の壁があり、制限内で見やすいページ構築を目指した。
入試広報課の支援を得てブログ（3/13 現在 62 件の記事）SNS の更新も行った。

2. 教育力の向上・教育環境の充実

(1) 教員研修の充実

- ・12 月に「不登校対応」の教員研修を実施し、生徒の多様性を学ぶ研修を行った。
- ・6 月にお互いの授業を教科を超えて見学する「授業見学週間」を実施した。見学することで得た学びをスプレッドシートで共有することで、教員の授業力向上をめざした。
- ・教員個人で校外の研修会に参加することを奨励した。

(2) 学習メンターと連携した教育環境の整備

- ・「トモノカイ」と連携し、放課後の自習室・中学チャレンジタイムに現役大学生の「学習メンター」を派遣する取組を進路指導部を中心に開始した。
- ・放課後の自習室について、開室時間を広げかつ学習メンターを配置することで、生徒が気軽に進路や勉強について質問できる環境を整備し、意欲ある生徒を応援する取組を始めた。
- ・中学校チャレンジタイムを導入し、授業を受けるだけでなく自分で課題に取り組む時間を設けることで自学自習習慣の確立を目指した。2024 年度は基礎学力として重要な数学に限定し学習メンターと共に学力向上にとりくむ「数学チャレンジタイム」に改編した。

- ・各学年のLHRにおいて、学習メンターと連携し、進路や入試・勉強の仕方などを教員とは違う立場で生徒に説明する機会を増やし、目的意識を持たせるように取り組んだ。
- ・試行で、放課後のメンターとの学びの時間内で「数学塾」を取り入れ、大学入試結果に大きく効果を上げた。来年度からは、本格的に取り組む予定である。

(3) グローバル教育の充実

- ・海外研修・ターム留学・コリブリ（日仏交流）において、生徒が実際に海外を訪問して学ぶ機会の提供を行った。
- ・海外大学・留学ガイダンスなど生徒や保護者向けに情報を発信する機会を増やした。

(4) 進路実績の向上に向けて

- ・2024年度よりの45分授業導入に合わせて、朝のモジュール学習を取り入れ、自己調整学習アプリ「モノグサ」を使った毎朝10分の学習タイムを導入し、英検合格実績を上げることで、大学選びの幅を広げる。
- ・多様化複雑化する大学入試に対応し、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜など受験種別ごとのガイダンスをこまめに実施し生徒への情報提供を充実させた。
- ・大学出張授業、学部学科ガイダンスなど大学での学びについて、大学関係者に直接話を聞く機会を設け、生徒に大学での学びのイメージを持たせるようにした。
- ・志望理由書の作成・面接練習に、多くの教員が専門性を生かして関わり指導し、総合型選抜入試などで実績を上げることができた。
- ・連携協定校である関西学院大学への進学を意識させ、今年度も10名以上の生徒が進学した。
- ・国公立大学への入学者は3名であったが、上智や関関同立レベルの私立大学の実績を大きく58名に伸ばすことが出来た。
- ・海外大学にも4名が進学した。

(5) 教育理念の深化

学院創立70周年式典を小学校と中学校高等学校で一堂に会してミサを実施し、学院の歩みを共に祝うことが出来たことはアサンプションの精神の浸透と共感に繋がった。

3. 施設の整備

(1) ICT環境の整備

- ・生徒端末の故障対応の煩雑さの解消のためと一括購入による時期の遅れの解消のため、2024年度新入生より端末は各自購入に切り替えた。
- ・政府の補正予算の補助金「DXハイスクール」に応募し、メディアルームの機器・設備を改修し今の時代に合った新しい機材を用いた教育を行い理系人材の育成を目指すことで、補助金を2年連続獲得した。

(2) 施設・環境の整備

- ・生徒から要望の高い第二体育館更衣室の環境改善について検討し、冷房設備の導入をめざしたが電源が貧弱なため電源確保に多大な費用が掛かることがわかり、断熱工事に切り替えて環境改善に努めた。
- ・課題としては温暖化による高温対策のため第二体育館の冷房を整備することを検討し、学院と協力して見積もりを依頼している。
- ・各教室の冷房・プロジェクター・スクリーン、講堂の放送設備・スクリーンなど老朽化が進むものが多く、段階的に整備することを法人本部と協力して行っていきたい。

4 2024 年度 アサンプション国際小学校 事業報告

【ミッション】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す。
～全学年が新体制になるため、「アサンプション 21 世紀型教育」の充実と定着～

【重点課題】

- (1) 授業力向上…教職員の意識改革、組織力強化と授業力の向上の育成
- (2) 英語力強化…イマージョン教育の改良と組織化
- (3) 学院的課題…募集 70 名を目標とした広報戦略の強化
- (4) 宗教教育再生・強化…カトリック校に相応しい全校的体制刷新

【2024 年度入試結果】

	全体	イングリッシュコース			アカデミックコース		
		合計	男子	女子	合計	男子	女子
出願者	85 (内部15含む)	57 (内部4含)	25	32	28 (内部11含)	16	12
受験者	82 (内部15含む)	56 (内部4含)	25	31	26 (内部11含)	15	11
合格者	73 (内部14含む)	38 (内部2含)	14	24	35 (回10内12)	18	17
手続き	57 (内部14含む)	31 (内部2含)	10	21	26 (回5内12)	15	11
入学	56 (内部14含む)	30 (内部2含)	10	20	26 (回5内12)	15	11

・2023 年度より、イングリッシュコース 1 クラス・アカデミックコース 1 クラスの 2 クラス体制とした。しかし、クラス数が減になることがマイナスイメージとなった傾向がある。

【具体的な取り組みと評価】

(1) 授業力の向上

①研究研修体制

研究研修部が研究テーマを設定し、それに沿った教員研修を進めた。研究授業では、全員参観を原則とし、事後研修会においても一人ひとりが発言しやすい手法を用いた研修を行った。若手・ベテラン共にたくさんの発言をすることにより、研究テーマについて深く学ぶことができた。より多くの学ぶ機会を設けるために、年間計画を担当者と再度検討中である。

②PBL

全体的な理解が進み、より一層多くの実践を残すことができた。PBL が特別な授業で使われる手法ではなく、日常的に取り入れられる学び方として全教員が認識することができている。若手の教員も積極的に取り組み、実践報告を発表することができた。

③ICT 活用

iPad の本格導入から 4 年が経ち、授業内での ICT 活用場面は大幅に増えた。児童の運用能力も向上しているので、iPad を「使えるようになる」ことから「使って何を考えるか」の授業に重点を置く段階に入ってきた。今年度の 2 年生より、LTE 仕様の iPad をレンタルで使用するようになり、今まで以上に使用場所に限定されない使い方ができるようになった。

(2) 英語力 (イマージョン) 強化

①モジュールタイムの導入

…定期的に朝の時間を確保することで、取り組みを定着させることはできた。電子書籍の活用にも積極的に取り組み、バランスよく英語力を向上させることができた。

②イマージョン授業レベルアップと全学年への拡大。

…定期的に会議の場を持つことができ、PBL の授業を主体とするという意識統一ができた。また、指導に際しての注意点なども確認できた

③中高のイマージョン部との連携

…具体的な指導・カリキュラムなど、12年一貫プログラムを構築できた。今後、中高との教員研修の場を持ち更なる理解を深めていく。

④中高のサイエンスフェスに参加することで、学びの可能性が見えてきているようである。

⑤5年生海外研修を今年度からファームステイで実施し、児童の満足度も高かった。

⑥このような実践的英語教育を取り入れていき、5年前と比較すると英語検定の結果、B2レベルの児童が増え、A1レベルが半減した結果となった。

英語検定結果

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
CEFR B2		0%	0%	1%	5%	6%
CEFR B1	5%	8%	5%	6%	28%	24%
CEFR A2	41%	46%	62%	63%	42%	45%
CEFR A1	54%	46%	33%	30%	25%	25%

【参考】 CEFR B2...英検準1級

CEFR B1...英検2級

CEFR A2...英検準2級

CEFR A1...英検3～4級

(3) 学院的課題＝募集大増強（70名） ※入学者56名

①幼稚園⇒園長推薦制のさらなる確立と説明会実施

…2024年度入試内部園長推薦は14名となった。

…5月に併設幼稚園への説明会を行った。参加者に対して、推薦制度とコース決定方法の周知も浸透できた。

②小学校⇒校長推薦制度改革と中学授業への体験の実施

…3～6年生保護者に対しての中学校説明会、5年児童に対しての出張授業を実施した。

(4) 宗教教育再生・強化

①「宗教の時間」への教員の参画機会増強

…礼拝担当を通じて、Sr.の助言のもと、聖書や創立者の言葉について考える機会を設けた。

…学級担任は、週1時間の「宗教」授業に参加した。

②教員に対する宗教教育実施

…4月に教員研修を実施。

③学院創立70周年式典を小学校と中学校高等学校で一堂に会してミサを実施し、学院の歩みを共に祝うことが出来たことはアサンプションの精神の浸透と共感に繋がった。

5 2024年度 こども園アサンプション国際幼稚園 事業報告

【理念】

- ・キリスト教の精神に基づき「誠実・隣人愛・喜び」をモットーとする。
- ・愛されて愛する心を知り、一人ひとりが、かけがいのない大切な存在であることを知る。

【在籍日数及び入園者報告】

- ・2歳児クラス 12名
- ・3歳児クラス 58名
- ・4歳児クラス 73名
- ・5歳児クラス 80名

計223名（2024年度末実績）

【重点課題】

1. 教育充実の取り組み
2. 地域との連携
3. 園児募集に関わる事業
4. 子育て・保護者支援
5. 各所属との交流（園児・児童・生徒・教員）

【具体的な取り組みと評価】

1. 教育充実の取り組み

（1）聖堂にて、シスターから聖書のお話を聞く

管理職体制が一新し、園長および副園長がシスターとなり普段から子ども達が自然にキリスト教を身近に感じることが出来た。保育を実践する中で、各学年で月1回、聖堂でシスターから神さまのお話を聞く機会を持った。神さまに守られながら、喜びと感謝の気持ちを持って過ごした。

（2）本園教員、ネイティブによる英語教育カリキュラムの構築

学年に応じた指導と教育時間の計画を立てて実施した。（年中、年長組…毎週2回 年少組…2学期より週1回実施）歌やダンス、ゲームなどを取り入れ楽しく英語に親しむことができた。また2月の英語参観では年長クラスで英語劇を行った。

（3）異年齢保育

年少児と年長児は保育室が隣になるように配置し、異年での交流が持てる機会や時間を作った。年長児は進んで年少児のお世話や一緒に遊んだりすることを通して相手に対する思いやりや労わる気持ち、成長への憧れや期待をもって過ごすことができた。

（4）コヤマススポーツスクールによる体操指導の実施

幼児体操専門の指導員を招き、子どもたちの運動能力を伸ばすための体操を実施した。

2. 地域との連携

(1) 地域子育て支援「みんなで あそぼう」を年間17回実施。(園庭開放、行事参加等)園庭開放には平均5人が参加。またイベントを年間3回実施し、近隣の未就園児が園に遊びに来て、園を知ってもらう機会を設けることができた。

未就園児向けイベント実施内容

- ・ 7月 1日 紙芝居(やっさん一座) ※参加者8名
- ・ 8月28日 お絵描き教室(原主幹保育教諭) ※参加者12名
- ・ 9月 5日 ピアニカによる演奏会(ピアニカの魔術師) ※参加者15名

(2) 架け橋プロジェクトとして萱野北小学校と教員間の交流を行った。現在は担当者レベルでの実施ですが、来年度以降は範囲を広げて理解を深めていきたい。

3. 園児募集に関わる事業

(1) プレスクールの実施(2歳児…ひとクラス定員12名、4クラス…年間20回)。30名中23名が入園に繋がった。ただし2025年度はプレスクール参加者が18名となる見込みである。

(2) ブログを毎日更新し、子どもたちの様子と園内の新しい情報を提供。

(3) 入園説明会を9月に実施。

2回に分けて実施した。参加者は計78名。新年度の新入園児数は3歳児クラス59名であった。

4. 子育て・保護者支援

(1) 預かり保育の予約に空きがなく、保護者から受け入れ枠の拡大の要望があった。教員を増やし可能な限り保護者の希望に沿うように実施することができた。しかし曜日によっては予約がいっぱいになっている。

(2) 行事やイベント時は園に駐車ができないため、交通手段の確保が難しい。今年度はクリスマス会にスクールバスを運行し、保護者の送迎を行った。今後もスクールバスを活用していきたい。

5. 各所属との交流(園児・児童・生徒・教員)

併設小学校および中高の児童・生徒と下記の日程で交流を持つことができた。

- ・ 10月 8日～18日 アサンプション国際高等学校2年生の保育体験「ふれあい実習」
- ・ 10月26日 アサンプション・チャリティーデー
- ・ 10月31日 併設小学校ハロウィンパーティーに参加
- ・ 12月21日 併設小学校いっしょにあそぼう
- ・ 1月 3日 アサンプション国際高等学校の保育実習
- ・ 2月 7日 フィリピン・アサンプションカレッジの幼稚園訪問・交流

第3 財務の概要

1 財務の経年比較

入学者数（単位：人）

5/1現在

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
高 等 学 校	92	106	124	156	132
中 学 校	52	36	48	56	52
小 学 校	65	84	68	67	55
こ ど も 園	85	84	82	83	66
合 計	294	310	322	362	305

在籍者数（単位：人）

5/1現在

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
高 等 学 校	317	313	314	376	381
中 学 校	160	137	132	136	147
小 学 校	303	372	399	401	381
こ ど も 園	259	244	238	251	218
合 計	1039	1066	1083	1164	1127

教職員数（単位：人）

5/1現在

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
高 等 学 校	教 員	22	21	21	24
	職 員	1	2	1	1
中 学 校	教 員	23	21	19	18
	職 員	1	0	1	1
小 学 校	教 員	29	33	39	38
	職 員	1	1	1	1
こ ど も 園	教 員	18	19	18	16
	職 員	2	2	1	1
法 人 職 員	7	8	8	8	7
合 計	教 員	92	94	97	96
	職 員	12	13	12	11

資金収支計算書（単位：百万円）

項 目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	576	645	630	688
	手 数 料 収 入	5	6	7	6
	寄 付 金 収 入	10	8	2	7
	補 助 金 収 入	453	459	483	526
	資 産 運 用 収 入	0	0	0	0
	資 産 売 却 収 入	0	0	0	0
	事 業 収 入	14	15	56	66
	付 随 事 業 ・ 収 益 事 業 収 入	0	0	0	0
	受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入	0	0	0	0
	雑 収 入	11	31	12	64
	借 入 金 等 収 入	620	240	380	320
	前 受 金 収 入	54	65	78	67
	そ の 他 の 収 入	523	680	734	931
	資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 85	△ 99	△ 94	△ 155
支出の部	収入の部小計（A）	2,181	2,050	2,288	2,520
	前 年 度 繰 越 支 払 資 金	118	87	27	81
	収入の部合計	2,298	2,137	2,315	2,601
	人 件 費 支 出	735	818	812	892
	教 育 研 究 経 費 支 出	185	223	214	201
	管 理 経 費 支 出	92	96	126	135
	借 入 金 等 利 息 支 出	6	1	1	1
	借 入 金 等 返 済 支 出	676	350	316	373
	施 設 関 係 支 出	2	10	23	7
	設 備 関 係 支 出	2	6	11	36
	資 産 運 用 支 出	124	122	144	178
	そ の 他 の 支 出	417	539	611	769
	資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 21	△ 54	△ 24	△ 107
	支出の部小計（B）	2,217	2,111	2,234	2,485
（A-B）年度収支差額	次 年 度 繰 越 支 払 資 金	82	27	81	116
	支出の部合計	2,298	2,138	2,315	2,601
（A-B）年度収支差額		△ 36	△ 61	54	35

事業活動収支計算書（単位：百万円）

項 目			2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動収支	事業活動収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金	576	644	630	688	686
		手 数 料	5	6	7	6	6
		寄 付 金	10	8	2	7	11
		補 助 金	453	459	483	526	572
		資 産 運 用 収 入	0	0	0	0	0
		付 随 事 業 収 入	14	15	56	65	59
		雑 収 入	2	31	12	55	60
		教 育 活 動 収 入 計	1,060	1,163	1,190	1,349	1,395
	事業活動支出の部	人 件 費	710	815	819	884	850
		教 育 研 究 経 費	282	316	291	293	310
		内 減 価 償 却 額	97	93	77	92	88
		管 理 経 費	92	97	127	128	124
		内 減 価 償 却 額	2	1	1	3	3
		徴 収 不 能 額 等	0	0	0	0	0
教 育 活 動 支 出 計		1,084	1,228	1,237	1,305	1,285	
教 育 活 動 収 支 差 額		△24	△64	△ 46	43	110	
教育活動外収支	事業の活動収入	受 取 利 息 ・ 配 当 金	0	0	0	0	0
		そ の 他 の 教 育 活 動 外 収 入	0	0	0	0	0
		教 育 活 動 外 収 入 計	0	0	0	0	0
	事業の活動支出	借 入 金 等 利 息	6	0	1	1	1
		そ の 他 の 教 育 活 動 外 支 出	0	0	0	0	0
		教 育 活 動 外 支 出 計	6	0	1	1	1
	教 育 活 動 外 収 支 差 額		△6	0	△ 1	△ 1	△ 1
経 常 収 入		1,060	1,163	1,190	1,349	1,395	
経 常 支 出		1,089	1,228	1,237	1,306	1,286	
経 常 収 支 差 額		△30	△65	△ 47	43	109	
特別収支	事業の活動収入	資 産 売 却 差 額	0	0	0	0	0
		そ の 他 の 特 別 収 入	0	0	3	11	13
		特 別 収 入 計	0	0	3	11	13
	事業の活動支出	資 産 処 分 差 額	0	1	1	0	0
		そ の 他 の 特 別 支 出	0	1	1	9	0
		特 別 支 出 計	0	2	2	10	0
	特 別 収 支 差 額		0	△2	1	1	13
基 本 金 組 入 前 当 年 度 収 支 差 額		△30	△67	△ 46	43	122	